

科目	専攻科特別実習 (Field Practical Training)		
担当教員	西田 真之 教授【実務経験者担当科目】		
対象学年等	機械システム工学専攻・1年・通年・選択・2単位【実験実習】		
学習・教育目標	C2(50%), D1(50%)		
授業の概要と方針	<p>学生が在学中に自らの専攻あるいは将来のキャリアに関連した業種、職種の学外企業、公的機関等において就業体験を積み、専門領域についての視野や見識の拡大を図るとともに社会環境の変化に則した勤労観ならびに職業観を醸成することを目的とする。実習は、科目担当教官ならびに特別研究指導教官の指導のもと、実習内容ならびに実習計画等について実習派遣先と綿密な打ち合わせを行った上で実施する。</p>		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C2】実習機関の業務内容を理解し、実習先での具体的な到達目標を達成する。		実習機関の業務内容に対する理解度および実習先での具体的な到達目標の達成度を実習証明書と実習報告書で評価する。
2	【D1】実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深める。		実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深めたことを実習報告書と実習報告会で評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、プレゼンテーション20% 実習証明書50% 実習報告書30% として評価する。(プレゼンテーション＝特別実習報告会)100点満点で60点以上を合格とする。実習届、実習報告書、実習日誌の提出がない場合は不合格とする。		
テキスト	なし		
参考書	なし		
関連科目	全科目		
履修上の注意事項	他の履修科目の授業と重複しない場合のみ実習先への派遣を認める。		

授業計画(専攻科特別実習)

内容(テーマ, 目標, 準備など)

<実習先の決定>

実習先の候補を案内資料および担当教員との面談の上で決定する。  
実習先が決定した後, 学外実習届を担当教員へ提出する。

<安全管理>

実習開始までに傷害保険等に参加する。

<実習期間>

特別実習の期間は, 国内で15日以上かつ120時間以上, 国外で10日以上かつ80時間以上とする。ただし, 複数の実習先での実習期間を合算することができる。

<実習報告書の提出>

実習終了後, 直ちに次に掲げる書類を提出する。

- (1) 特別実習証明書
- (2) 特別実習報告書
- (3) 特別実習日誌

<報告会の実施>

実習終了後, 特別実習報告会において実習内容を発表する。

備考

中間試験および定期試験は実施しない。